

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和4年2月28日

事業所名 こども発達支援 からふるしーど

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5	1	2021年は昨年に引き続き、感染症対策として、各児童のスペースを区切り、接触・共有を最小限とする等、濃厚接触とならない距離や時間を心がけている。
	2	職員の配置数は適切であるか	5	0	人員配置は法に則り適切に行い、補助職員を配置するなど余裕を持った配置としているが、職員の組み合わせや、児童の組み合わせにより、技術力強化の必要性を感じる場面がある。
	3	構造化、バリアフリー、情報伝達等への配慮が適切になされているか	3	1	物理的にはバリアフリーの環境を整備しているが、児童により、万全でないことはある。バランスを取りながら、必要な整備を進めていく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	4	1	各職員がPDCAサイクルを回しながら、結果に繋がる根拠に基づいた支援を行えるよう、会社として構造化していく必要を感じている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5	0	行っており、ホームページで公開している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4	0	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	0	1	職員・保護者による評価を毎年行い公表しているが、第三者による別途評価は行っていない。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5	0	は推奨しているが、酸化実績には個人差があり、会社としてオンラインなどのセミナーへの参加を促進していく必要性を感	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	3	0	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	3	0	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	1	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	0	現場単位での定期的なミーティング、月間スケジュールの作成、個別支援計画の具体的な日々の目標へのチャックダウンなど、日々のルーティンとして、定期的な実施ができるように、職員に対する構造化を進めてきたが、さらに調整する必要も感じている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5	0	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	2	0	弊社の基本的な支援方針である、行動科学に基づいた根拠のある支援を行うことができる専門知識を持ち実践中に活用できるよう職員を訓練することが目標ではあるが、個人差・温度差もあるため職員の役割分担を明確にすることにより、よりチームとして児童の発達支援を行えよう体制を整える。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5	0	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6	0	その日行われた支援に関して、全員が各自報告する仕組みを整えている。また、一部職員は、各児童の支援に関して児発管に具体的に報告するなど、情報の集約をできている。また、活動記録は、パスワードで保護されたオンラインページで確認できるようになっており、検証改善の環境を整えている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5	0	
	18	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	2	0	児童発達支援管理責任者が、定期的に情報をまとめ、適宜提出している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	4	0	厚生労働省のガイドラインの周知を定期的に行う。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	0	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	4	0	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	0	医療的ケアが必要な児童は受け入れていないが、特別支援学校在学児童が通所している為、医療従事者を配置している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	0	必要な時に必要な連携を行っている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	2	0	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	0	必要な研修には参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	0	感染症への風評などへの警戒心も広がり、急遽中止となることもあるが、可能な限り交流機会を作っている。オンラインを活用した交流も検討している、
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	3	0	オンラインなど、形は変化したが連携をとるようにしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5	0	ペアレントサポートプログラムを用意し、希望する保護者がマンツーマンで受講できる制度を整えている。また、日ごろから相談などに応じ、必要な情報や、事例解説など、具体的にサポートを行っている。その現状を認識していない職員が見受けられるため、周知の必要性を感じる。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	1	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	1	0	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	1	0	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	0	今年は計画はあったものの、保護者の警戒心などに配慮し、集まったの実施は控えた。オンラインでの実施を計画する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	1	0	担当者が適宜行っており、会社も把握している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5	0	情報発信に関してはオンラインで積極的に行っている。
	35	個人情報に十分注意しているか	5	0	全職員への周知と、署名を行い、個人情報保護の意識付けを行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	3	0	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	1	時代に合った形での開かれた事業運営を推進している。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	5	0	マニュアルは策定されており、職員の書棚に設置されている。年間の訓練と、定期シミュレーションの実施を指示している。しかし、現場サイドで忘失することが多いと感じており、職員に対する構造化を進める必要性を感じている。また、定期的に業務に関するマニュアルを確認させ、確実に定期業務を履行されるよう常勤者に促す。保護者に対する周知は、より積極的な発信を推進していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	0	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4	0	職員研修の中に、虐待防止、身体拘束に関する情報を含めている。記録の徹底を周知しているが、社内研修など、人が集まる状態を作りにくい一年であった為、社内での研修機会が激減し、全員に周知されていない可能性があり、別の周知方法を構築している。また、カメラによる確認により、不適切な対応を防ぎ、必要に応じた調整を行えるようにしている。身体拘束についての記録は法に基づき残している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3	0	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4	0	医師の指示書が発行されている食物アレルギーをもつ児童は在籍していない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	0	作成し共有しているが、職員が定期的に確認するよう、構造化を進める。